

みんなの ひろば



※上のイラストは、題字と同じ内容を
指文字と手話で表したものです。

主 な 内 容

- 信頼回復に向けて 一発防止に向けた今後の取り組みー 2
- シリーズ 専門職紹介② 3
～和光学園、療育センターの心理職～
- [特別企画] みんなの食事大集合 part2 4、5
～和光学園、みたけ学園・みたけの園、療育センター、やさわの園の取組み～
- シリーズ わたしたちの自慢② 6
～療育センター、好地荘～
- 岩手県立児童館いわて子どもの森「来館者200万人達成！」 .. 7
たばしね学園「移動おもちゃ図書館」
- 製品紹介 ～松風園、松山荘～ 8
視聴覚障がい者情報センター「奉仕員のつどい」
平成24年度職員提案制度表彰式

116号

平成25年12月15日
発行



入賞おめでとうございます！

～第21回岩手県障がい者文化芸術祭～

11月30日、第21回岩手県障がい者文化芸術祭の記念式典が開催され、当事業団からは4人の方が表彰を受けました。

表紙を飾る作品は、地域生活支援センター歩夢を利用している櫻井竜也さんが製作した「つながる輪」です。絵画部門で、見事、優秀賞を受賞しました！



信頼回復に向けて

「再発防止に向けた今後の取り組み」

岩手県社会福祉事業団

理事長 藤原健一

先般、当事業団の共同生活事業所において、利用者の預り金を職員が着服するという事案が発生しました。

利用者、ご家族はもとより、関係者の多くの皆さま方に多大なるご心配とご迷惑をお掛けしましたことを、心からお詫び申し上げます。

着服事案発生の背景

当事業団では、利用者の預り金等の管理について、職員による不正防止を強化するため、平成15年度に預り金管理規則及び預り金管理要領を制定し、①利用者や保護者への定期的な管理状況の報告、②施設ごとの管理状況の理事会への報告、③金品等の保管管理等についての内部けん制システム、などについて規定し運用しているところです。

しかし、本着服事案が発生した事業所においては、職員のチェック体制が弱く、銀行預金からの引き落としや小口現金の処理、物品の購入など決められた相互けん制機能が省略され、金銭管理

に関わるモラルが低下しており、長年にわたって預り金管理規則及び預り金管理要領に定めた方法での管理が徹底されておりませんでした。

また、当該事業所では、非常勤職員の割合が高いにも関わらず十分な指導、研修機会のないままに金銭の取扱いを含む支援業務に当たっており、研修体制も整備されていませんでした。

こういったことが、今回の着服事案の温床になったものと考えているところです。

今後の取り組み

今後、当事業団の全ての施設等において、二度とこのような事案が発生しないよう、コンプライアンスの徹底と金銭管理体制の改善等、再発防止に万全を期して参りたいと考えております。

本着服事案の発生後、適正な利用者の預り金管理を行うために、利用者から金銭の預かりを行っている全ての事業所において自主点検を行い、預り金管理規則及び預り金管理要領の徹底を図つ

たところです。

当該事業所では、今後、次の4点を柱として再発防止に向けた取り組みを行います。

- 組織体制の再構築
- 利用者預り金に係る事務の厳正化
- 職員に関わる教育研修、人材育成の推進
- 利用者、家族とのコミュニケーションを重視した支援

そして、さらに、法人全体として次の取り組みを進め、不正防止に努めて参ります。

- ◆預り金管理規則及び預り金管理要領の見直しと徹底

法人内で共同生活事業所担当者会議を実施し、その中で事案の要因を再分析し、課題の整理を行い、預り金管理規則及び預り金管理要領について見直しを行います。見直し後は、適正な運用の徹底を図ります。

- ◆研修体制の確立

非常勤職員が十分な研修機会のないまま支援業務を行っていたことから、非常勤職員に対する一定の研修期間の設

定と研修体制の確立を図ります。

- ◆相互けん制システムの強化

法人内部の相互けん制システムを強化するため、(管理状況を点検するための)法人本部による監査体制の再構築と、預り金管理をはじめ業務全般を指導する職の設置を検討します。

- ◆新たな金銭管理方法の検討

金銭管理方法の抜本的な見直しに向け、外部機関への委託など新たな管理方法について検討します。

当事業団は、利用者の皆さまの人権を擁護する立場にありながら、長年にわたる人権侵害を食い止めることができませんでした。利用者やご家族を始め、県民の、当事業団や社会福祉事業に対する期待や信頼を大きく損なったことを厳粛に受け止め、事業団役職員一丸となつて襟を正し、あらゆる努力によつて、失われた信用、信頼を回復し、より大きな信頼に変えていきたいと決意しておりますので、今後とも、皆さま方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

シリーズ

専門職紹介

Part2



専門職のお仕事を紹介するシリーズ第2弾。
今回は和光学園と療育センターの心理職の紹介です。

地域の療育体制作り

～地域支援に携わる心理職～

県立療育センター(相談支援部)

県立療育センター相談支援部の障害児等療育支援事業を展開する地域支援チームには3名の心理担当職員がおり、県内の乳幼児期の療育体制作りを目的に業務を行っています。

心理職と聞くと、来所した相談者や家族とカウンセリングや心理検査を行うと想像されるかもしれませんが、地域支援チームの心理担当は、子どもや家族が生活する市町村に向いて業務を行っています。そこで行う発達相談会では、子どもの発達評価と家族へ子育ての助言を行なうとともに、相談後に保健師や保育士等の支援者とカンファレンスを持ち、支援方法の提案や支援方針の確認をしています。また、支援者のスキルアップを目的とした講演会や研修会を開催したり、市町村の地域性を活かしたネットワーク作りのために、市町村関係者や関係機関と情報交換会も実施しています。



市町村関係者等との情報交換会
年々、活発な情報交換が図られています。

す。

心理職の専門性を活かした、子どもや家族、支援者への直接的な支援はもちろんですが、行政レベルも見据えた地域支援も同時に求められる点が地域支援チームの心理担当の特徴です。

広大な県土で、地域性もありますが、乳幼児期の支援に携わる方々の熱意や努力に感心し、励まされることも多いです。岩手で育つ子どもがどの地域でも健やかに育まれるように、関係機関の方々との連携を深めながら日々業務に励んでいます。

(相談支援員兼臨床心理士 佐野 泰葉)

臨床心理士はどんな仕事?

～外来診療での業務について～

県立療育センター(診療部)

県立療育センター診療部では、現在、4名の臨床心理士が、主に小児科と児童精神科での業務にあたっています。私たちの業務の中で大きな割合を占めているのが、心理検査の実施です。

当センターでの心理検査は、医師の指示のもとに実施しており、対象は乳幼児から成人まで幅広く、目的も療育方針の参考のため、就学・進学の資料のため、手当等書

子どもの遊びを利用した心理療法

～児童心理判定員～

和光学園

多くの児童養護施設では、虐待や不適切な養育により心的外傷を受けたり、対人関係の取り方に難しさを持つ子どもたちに対し、心理療法を実施しています。和光学園では主に幼児から小学生の低学年を中心に、子どもの状態の把握や情緒の安定を図るため、プレイセラピーを行っています。

普段の集団生活の中では、話しづらい話題や悩みなども、セラピーの中では、遊びを通して素直に表現できることがあります。特に言葉でうまく伝えられない子は、人形遊びや箱庭療法の中で直接的に家族への思い等を表現してくれます。心理職は、回数を重ねるごとに変化していく様子などを観察し、アセスメントしていきます。また、年

齢に応じて感情や思いを言葉で表現できたり、怒りや苛立ちを暴力などで表現してしまう子どもには、感情のコントロールの仕方や対人関係の取り方を教えたりもします。

和光学園における心理職の役割は、受容・共感で子どもを守り受け止めるだけではなく、他者と適切な関係を築ける自立した大人として成長できるように、支援することも含まれていると思います。

(児童指導員兼心理判定員 寺崎 ふみ)



大好きなおもちゃ(ドールハウス)を使ったプレイセラピー

類作成のためなど、多岐にわたっています。また、検査場面ではご家族の様々な悩みに立ち合うことも多く、お会いする方の気持ちをしっかりと受け止めることも重要な役割です。家族関係を含めた環境、困っていることや願いを丁寧にお聞きし、その方の主体性を尊重しながら、地域での生活に役立つ具体的な提案ができるよう心がけています。

一方で、受診者数増加に伴い、検査に適した部屋や、定期的な相談に応じられる部屋の確保が物理的に難しいことから、検査の予約が取りづらい、継続的な相談体制が

不十分であるなどの課題も抱えています。どのように工夫ができるか頭を悩ませているところですが、利用される方が「療育センターに来てよかった!」と感じただけよう、今後ともサービスの充実を目指し、専門性を高めていきたいと思っています。



絵カードや積木などを用いて心理検査を行います。

(臨床心理士 小倉早矢香)

和光学園

和光学園には4歳から18歳までの子どもたちが生活しています。そのため、食事提供時には年齢に応じた工夫をしています。同年代の子どもに比べ発達が遅い子もいるため、個々の身体状況に合わせ食事量を調節したり、女子中高生の中には、カロリーや糖分などに関心がある子もいるので、献立表には1食当たりのカロリーやタンパク質、糖分や塩分量などの栄養価を載せています。その日に使用した食材を赤・黄・緑の食品群に分けたり、料理や食材のイラストを入れたりするなど、目で楽しめる工夫もしています。

写真にあるのが幼児遠足の弁当です。幼稚園では月に1回弁当の日があるため、手で食べられるようなおにぎり弁当や、おかずを一口サイズにするなどの工夫をしています。中高生の弁当は、栄養バランスや彩りに工夫し、食べ盛りの子どもが多いことを考え、満足感が得られるようボリュームのある弁当にしています。また、毎年、小学校の運動会には特製弁当を作っています。から揚げや肉団子などの力が出るおかずから卵焼きやポテトサラダなど、子どもが喜ぶおかずを並べています。徒競走で一番を取ってほしいという気持ちを込めて作っています。

献立を作るにあたっては、普段から子どもたちの要望を聞き取り、旬の食材や郷土料理なども取り入れ、バリエーションや季節感を出すようにしています。時には学園の家庭菜園でとれた食材も、上手く献立に活用しています。子どもたちにとって、学園の食事が楽しみであり続けるため、今後も頑張っていく予定です。

(栄養士 加茂谷和基)



幼児遠足のお弁当

みたけ学園 みたけの園

みたけ学園みたけの園は、障がい児者併設の入所施設です。6歳から62歳までの利用者96名が在籍しており、幅広い年齢層の嗜好に合わせた給食を提供するため、年に2回、嗜好調査を行い献立に反映させています。また、利用者の誕生日には、その利用者のリクエストしたメニューを提供しています。

偏食や拘りが強い利用者も多いので、全ての料理に手をつけられないということがないよう、献立作成に気を付けています。一例としては、魚嫌いの利用者への対応として、魚のメニューの際は、副菜には、嫌がらずに食べられる食材を取り入れるなどの工夫をしています。

また、疾患に応じた療養食、摂食・嚥下機能に合わせた個別対応など、利用者一人ひとりの日々の状態をよく観察しながら、職員、看護師とも協力



誕生日メニュー
(ちらし寿司・カニサラダの
リクエストメニュー)

して、適切な食事の提供に努めています。今年度は特に食育活動に力を入れ、その一環として、季節毎のバイキング給食や、利用者からの要望を受けての調理実習を行っています。利用者のうれしそうな様子がとても印象的で、食体験の大切さを改めて感じました。

さらに、週に3回は手作りおやつを提供しています。成長に必要な栄養を補いながら、家庭的な雰囲気や素朴な味わいを感じてもらいたいと思っています。

今後も利用者一人ひとりの要望にお応えしながら、『安全で、美味しく、楽しい食事』を提供し続けられるように努めていきたいと思っています。

(栄養士 矢幅 梢)

part2

この企画。み
たけをいただき
ます。園、療育
です！

みたけ学園
センター食事の紹介

食事紹介



和光学園



みたけ学園

陶器の食器です。

すずかけ寮
バイキング給食

療育センター

療育センターの給食は、1歳から60歳代まで幅広い年齢の方が利用されています。普通食からヨーグルトのようなペースト状の食事まで、求められる食事形態の幅が広いので、食材の大きさや硬さで8段階に分けています(表1)。その中から個々の利用者に適した内容を選択してもらい、提供しています。

利用者に美味しく、安全に、そして安心して食べていただける食事作りに努め、特に軟菜食の調理については、普通食と同じ料理、味付け、見た目で提供できるように心がけています。

例として、焼きそばと焼き魚の調理についてご紹介いたします。軟菜食の焼きそばは、蒸し中華麺を1時間半程茹でて舌で潰せる硬さにします。それに同じ位に軟らかく煮た野菜類を混ぜ合わせ、仕上げに舌で潰せる硬さの既製の豚肉をトッピングして作ります。また、焼き魚はムース状に仕

(表1)療育センターの食形態の段階

硬さ	大きさ	食物の状態	対象となる摂食機能
常食	普通	そのまま	普通に食べられる
	一口大	1cm大	噛み切れないが普通に食べられる
	粗刻み	0.5cm大	咀嚼するが、十分でない
軟菜食	普通	そのまま	力が弱いが咀嚼ができる
	一口大	1cm大	噛み切れないが、力が弱い咀嚼ができる
	粗刻み	0.5cm大	歯茎での押し潰しができる
	細刻み	0.2cm大	舌での押し潰しができる
ペースト食	ペースト	ペースト状	咽喉に送り込み飲み込める

特別企

みんな

大

集

施設の食事提供の取組みを紹介する
みんなの広場第114号の掲載で好評の
声でしたので、第2弾を企画しました。
今回は、和光学園、みたけ学園・みた
け療育センター、やさわの園の食事を紹介しま

和光学園
みたけの園、療育

各施設の

やさわの園

やさわの園は、本年3月に新園舎が完成し、厨房においては新たにオール電化対応の設備、機器が整備され、メニューの幅が大きく広がりました。

スチームコンベクションオーブンやブラストチラー(急速冷蔵・急速凍結)、真空包装機を導入したおかげで、調理時間を短縮でき、ハンバーグやグラタンなど時間のかかる料理を手作りで提供できるようになりました。ババロアやゼリーなどのデザートも、ブラストチラーを使用することで提供までの時間が短縮され、気軽に献立に取り入れることができます。利用者の皆さんもデザートが大好きで、真っ先に手に取って食べています。

このバリエーション豊かなメニューを、毎日、利用者の皆さんに伝えたいと思い、献立の写真掲示を行っています。さらに、朝の集いでは献立写真をプロジェクターで映し出し紹介しています。利用者の皆さん



献立紹介の様子

(栄養士 我妻 恵子)



療育センター



やさわの園

ペースト食

新園舎記念式典食

シリーズ

わたしたちの自慢 vol.2

各事業所の「ここが自慢!!」ということを取り上げ、紹介するシリーズ。
第2回は療育センター、好地荘の自慢を紹介します。

♪ 和太鼓活動 ♪

救護施設 好地荘
(花巻市)

好地荘の自慢は和太鼓活動です。活動を開始した平成2年から現在まで様々な変化がある中、和太鼓活動は途絶えることなく変わらず続いています。

和太鼓活動の時間には、自然と人が集まってくる。演奏している人も見学している人も、真剣でありながらも笑顔が絶えず、とても良い雰囲気です。「太鼓を叩きたい」「1つの曲を作り上げたい」など、参加する理由は一人ひとりさまざまですが、そんな良い雰囲気を参加者みんなで体感、共有できる時間だからこそ、この活動が20年以上も続いている

のだと思います。

今年も、花巻ふれあい文化祭、石鳥谷歳末助け合いでのステージ発表に地域の一員として参加します。1年間の活動を発表する施設内発表会も継続して行います。発表の前は、やはり適度な緊張感。この感覚もたまりませんね。和太鼓活動を、これからも次の時代へ、皆さんと一緒に受け継いでいきたいと思います。

(生活指導員 木村 響子)



発表会
日頃の成果を発表します。



練習風景
最高の笑顔!

★イベントたくさん!★

岩手県立療育センター
(盛岡市)

当センターは、昭和32年に肢体不自由児施設「都南学園」として開設され、昭和51年には、肢体不自由児者総合福祉施設「都南の園」となり、さらに、平成19年には、児童精神科外来の新設、相談支援部の設置による地域療育支援などの強化を図り、「岩手県立療育センター」として再編され現在に至っています。この歴史の中で受け継がれてきたさまざまな行事があり、これが施設の自慢です。

各部署が参集し楽しむ行事としては、6月のチャグチャグ馬コに始まり、7月のサマーフェスティバル、12月の開所記念行事、クリスマス会、2月は節分、3月にはひなまつり昼食会があります。

おまけ 当センターから見える盛岡市街の夜景も自慢の一つではないでしょうか。盛岡都南花火大会
絶景かな! 絶景かな!
(児童支援係長 菊池 淳子)



チャグチャグ馬コに乗ったぞ!



2013もりおかさんざ踊りパレード

幼児から成人までが利用している当センターですので、この他にも紹介しきれないイベントがもりだくさんですが、ここで忘れてはいけない最大級のイベント、それは、今年で5回目の参加

来館者200万人達成！ 岩手県立児童館いわて子どもの森（一戸町）

岩手県立児童館いわて子どもの森は、平成25年7月21日、開館から10年で来館者200万人を達成しました。

200万人目は、盛岡市の小学校3年生の女の子とその両親で、来館は3回目とのこと。館長から、手づくりの記念証と記念品を贈り、他の来館者とともに、来館者200万人達成を記念して、色とりどりの風船を空へ飛ばしました。また、当館のプレリーダーが感謝の気持ちを込めて、200個の記念バッチを来館者の方々に配りました。

当館は、平成15年5月5日のオープン当初から、岩手県社会福祉事業団が運営しており、子どもたちが五感を使った主体的に取り組むさまざまな「遊び」を提供するなど、児童



館長から来館者200万人目の記念証の授与

健全育成の役割を担ってきました。今後においても、子どもたちの自発性、自主性を何よりも大切と考え、一人ひとりの子どもにとって「大好き」がみつかる、「大好き」と出会える場所であり、お父さん、お母さんといっしょになって、「楽しさ」を共有している場であり続けたいと思っています。

また、県立の大型児童館として、県内の子育て（健全育成）に関わる児童館、放課後児童クラブなどの遊び環境が充実されるよう、多様な遊びのメニューの普及啓発、情報提供などに取り組みとともに、平成23年3月に発生した東日本大震災の被災地の子どもたちに、多様な遊びを提供する事業を継続するなど、子どもたちの健全育成に努めていきたいと思います。

（主事 清原 裕子）



来館者と一緒に風船を飛ばしてお祝いをしました。

高校生ボランティアとの絆 ～たばしね学園 移動おもちゃ図書館～（奥州市）

30数年続いていた当園と気仙沼市内高校生との交流が、3年前の東日本大震災によって途絶えていました。その間、当園独自の支援として「移動おもちゃ図書館・おもちゃ病院」を、毎年、気仙沼市内の仮設住宅集会場等で開催し、気仙沼市社会福祉協議会と連携しながら協力にあたってきました。こうした繋がりが実を結び、今年になって気仙沼市内高校生との交流が再開される運びとなりました。

8月1日、気仙沼市社会福祉協議会主催による「夏の高校生ボランティアスクール」が、当園を会場に開催されました。気仙沼市内高校生の他、今回は前沢高校の生徒さんの参加もあり、高校生同士の交流も図りながら、当園の子どもたちとの交流を深めました。当日は、ゲーム交流や布芝居等、それぞれの高校生が考えた遊びを披露してくれ、子ども達も大変楽しんでいました。



上：気仙沼の高校生が用意したゲームで遊ぶ利用者
下：「キッズルームおひさま」での移動おもちゃ図書館

8月7日には被災地で「移動おもちゃ図書館・おもちゃ病院」を開催し、これにも高校生23名が参加してくれました。今回は、気仙沼市内の認可外保育所「キッズルームおひさま」を会場に、約60名の子どもたちが遊びに来てくれました。「移動おもちゃ図書館」への高校生の参加は初めてでしたが、当園での経験を活かし、それぞれの関わり方で子どもたちと接していました。

一度途切れてしまった交流が再開できたことで、より深い「絆」を確かめることができ、また、そこから新しい「出会い」を拡げることができました。「また来年会おうね！」そんな言葉を交わしつつ、気仙沼市内高校生・前沢高校生との交流は今後も続いていきます。

（児童指導員 野田 知秀）



気仙沼の高校生と保育所の前で記念撮影

製品紹介



当法人の事業所で生産・販売している商品を紹介します。

自家焙煎珈琲 - Matsukaze coffee - 松風園 (花巻市)

松風園では「お客様に品質の高いおいしいコーヒーを提供する」というスローガンのもと研究開発を重ね、多くの皆様に支えていただきながら自家焙煎珈琲を生産してきました。

そして今回、コーヒー豆の包装方法をチャック付スタンド袋に変更し、さらにコーヒーから発生されるガスを外部に放出し、内部に酸素が入らないバルブを取付加工することで、長期間鮮度を保つことが可能になりました。価格はそのまま、さらなる質の向上を図ることができました。

また、ラベルデザインも障がい者就労支援振興センターのアドバイザー派遣事業を活用し、グラフィックデザイナーの山崎文子先生にデザインしていただきました。

これまでの「まつぱっくりcoffee」から、「Matsukaze coffee」へとブランド名も一新。新しくなった松風園の自家焙煎珈琲を、ぜひ一度ご賞味ください。

(職業指導員 嵯峨 知義)



新しくなった「Matsukaze coffee」です。

【問い合わせ先】松風園

☎0198-45-3016 花巻市石鳥谷町中寺林7-46-3

木工製品 - オノオレカンバー 松山荘 さぼーとセンターフルール (宮古市)

松山荘保護施設通所事業さぼーとセンターフルールでは、「斧折樺(オノオレカンバ)」という樹の特性を活かした製品の製作に取り組んでいます。

斧折樺とはその名の通り、斧が折れるほど堅い樹で、薄く仕上げる製品には最も適しており、現在では、調理ペラ、しゃもじ、バターナイフ、ジャムスプーン、箸置き、靴ペラの6アイテムを製作しています。

販売はイベントや近隣の施設にて行っていますが、注文販売も行っており、大変好評を得ています。現在リピーターのお客様も増え、順調に販路を広げていることから、花瓶敷き等の新たな製品の製作に取り組み始めました。この斧折樺シリーズの製品を手にする機会があれば、是非ご購入をお願いします。

(生活指導員 小野寺明宏)



オノオレカンバを使用した、丈夫で味わい深い木工製品です。

【問い合わせ先】さぼーとセンターフルール

☎0193-63-6337 宮古市保久田5-4

『朝ドラがやってきた!』 奉仕員のつどい開催

去る7月24日、アイーナで「平成25年度奉仕員(点字図書館)のつどい」が開催されました。点字図書録音図書の製作に長年にわたりご尽力いただいた奉仕員の方々に表彰状や感謝状が贈られました。



講演をする下館満吉さん。あつという間に、「あまちゃん」の世界に引き込まれていきました。

後半は、久慈市まちづくりアドバイザーで、同市ふるさと体験学習協会会長の下館満吉さんをお招きし、「朝ドラがやってきた!『あまちゃん』と過ごした1年半」と題して講演をしていただきました。下館さんは、ドラマの撮影に大変深く関わった方であり「じええ」と書かれたスタッフTシャツを身にまとい、時折BGMのように流れる愛用の着メロの「あまちゃん」の主題歌をバックに、撮影秘話を披露してくださいました。また、おもてなしの心や地域資源の再発見についても話されました。私たちも、そのおもてなしの精神に学び、視覚・聴覚障がい者へのより良い情報提供に努めていきたいと思っています。

(視聴覚障がい者情報センター 情報支援員 吉田 和恵)

平成24年度

職員提案制度表彰式

7月5日、平成24年度職員提案制度表彰式を行い、入賞者及び入賞施設に対して、藤原理事長から表彰状と報奨が授与されました。療育センター看護部の吉田恵子看護師長が提案した「整形外来電話応対連絡票による診療介助業務の中断の低減」が金賞に選ばれました。

平成24年度の職員提案制度は、各職員の積極的な提案により、総提案数が552件(うち採用数328件)となり、目標の300件を大きく上回る取り組みとなりました。

職員提案制度は、職員個々が法人の経営に関わる良い機会でもあります。今後も積極的な取り組みにより、改善を積み重ね、提供するサービスの向上、事業団の経営改革の推進を図っていききたいと思います。

(事務局 主事 山崎 竜史)